

令和4年8020公募研究報告書抄録（採択番号:22-2-08）

研究課題: 口腔疾患および口腔機能が人工透析患者の Malnutrition Inflammation Atherosclerosis (MIA) 症候群に及ぼす影響

研究者名: 三上理沙子¹⁾、水谷幸嗣²⁾、合田朋仁³⁾、相田潤⁴⁾、荒川真一¹⁾

所属: 1) 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科生涯口腔保健衛生学分野

2) 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科歯周病学分野

3) 順天堂大学腎臓内科学講座

4) 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科健康推進歯学分野

(本文)

背景・目的

人工透析患者において、栄養障害と慢性炎症を併発し、動脈硬化性疾患を発症しやすい状態である Malnutrition Inflammation Atherosclerosis (MIA) 症候群は生命予後の大きなリスクファクターになることが知られている。本研究では、人工透析患者における MIA 症候群と口腔疾患・口腔機能の関連を調査することを目的とした。

方法

254 人に対する横断研究の結果を解析した。問診、血液検査、身体測定に加えて 6 点法による歯周組織検査を含めた口腔内診査を行った。MIA 症候群の 3 つの構成要素、すなわち栄養障害、炎症、動脈硬化それぞれについて、血清アルブミンレベル、血清高感度 C 反応タンパク、心血管イベントの既往にて定義した。MIA 症候群と歯周炎および咬合支持の関連について、多重順序ロジスティック回帰分析を用いて検討した。

結果

254 名の参加者のうち、170 名 (66.9%) が MIA 症候群の構成要素を少なくとも 1 つ持っていた。交絡因子を調整後、重度歯周炎は MIA 症候群の構成要素の増加と有意に相関 (オッズ比 [OR]: 2.40、95%信頼区間 [CI]: 1.33-4.34、 $p = 0.004$) することが示された。さらに重度歯周炎患者では、炎症および栄養障害のオッズ比が有意に高いことも示された (OR: 2.21 および 3.31、95%CI: 1.10-4.43 および 1.64-6.65、 $p = 0.030$ および 0.001)。一方、咬合支持は MIA 症候群やその構成要素とは有意な相関を認めなかった。

結論

歯周炎は咬合支持とは独立して、人工透析患者の MIA 症候群、特に炎症と栄養障害と有意な相関を示した。